

縄文以前の北海道

－ いつ、どこから、どんな生活？ －

札幌国際大学人文学部現代文化学科
准教授 坂梨 夏代 氏

今回は縄文以前の北海道ということですが、縄文以前というのはすごく幅が広いです。

旧石器時代といわれる時代が縄文以前といわれる時代で、石器が使われるようになったのが、250万年～280万年前です。土器出現が縄文の始まりと考えるならば、今のところ1万6千年くらい前までに当たります。

まず、人類がどのように誕生し、北海道、日本列島に至ったのか。人類拡散の問題、気候の変化、人々が使っていた道具、この3つを視点として、概略を理解していただこうと思います。

人類は、700万年前に誕生したと言われていました。猿人の人骨が中央アフリカのチャド共和国でみつかり、今のところ一番古いとされています。そして、原人段階になって、初めてアフリカから出た痕跡が見つかります。この頃は直立二足歩行が既にできていたとされます。私たち現生人類－ホモサピエンスは、20万年前にアフリカで誕生しやがて世界中に拡散していきました。つまり、大きく見ると2回、人類はアフリカから拡散していったといえます。



日本列島や東アジアは4万年～3.8万年前の時期になると、遺跡群が増加します。つまり人がやってきたといえます。当時の日本列島は、サハリンと北海道が地続きでした。

北海道に初めて人がいた痕跡－石器が見つかったのが後期旧石器時代の約3万年前と言われ、初期の段階では、台形様石器（だいけいようせっき）という非常に小さな黒曜石製の石器が見つかります。その後、北海道各地では細石刃石器群（さいせきじんせっきぐん）と言われる、小型の黒曜石を

割って、木や骨に替え刃のようにつけて槍のように使っていたと考えられる細石刃（さいせきじん）、細石刃核（さいせきじんかく）に彫器や搔器などをもった道具のセットが見つかりました。旧石器時代の終わり頃には、有舌尖頭器（ゆうぜつせんとうき）という10センチ程度の石器も見られます。

気候と結びつけて考えていくと、2万8千年前から寒くなる時期が全世界に広がります。土器が出現する時、縄文の集落ができる時というのは気候的にもかなり変化に富んでいた時期になります。当時の様々な気候データを分析した結果、旧石器時代から縄文時代にかけては寒い時期と暖かい時期を繰り返しながら徐々に温暖な気候に変化していった時期だったと考えられます。

土器でみると、大正3遺跡の最古の土器が見つかった時期というのは、世界的に暖かくなっていく時期になります。その後の寒冷期には、土器は発見されておらず、石器群が広がりを見せます。また、狩猟具は気候に関係して変化していたということがわかります。旧石器時代の寒い時期は狩猟の対象は大型、中型動物でしたので、小さい矢ではなく、大きな狩猟具を使います。気候が暖かくなると、寒い時期と比べて植生などが変化し狩猟対象が中型、小型動物になり、矢じりと呼ばれる弓矢の先につけるものがでてきます。また、土器の利用については、堅果類などの植物利用に加えて、さけ、ますなどの海洋資源が使われた痕跡もあります。

最後に、北海道は旧石器時代から、北、南双方からの影響が見られます。その中で独自性を持ち、受容したり、しなかったりしながら、やがて縄文時代という時代に入っていく。その中で縄文土器はさまざまな地域で特徴的な文様が作られるようになります。

北海道は地域や時期によって多様性があり、非常に面白い土地だと思います。皆さんも、北海道には縄文に続いていく沢山の文化がありますので、興味をもっていただければと思います。



縄文

トピックス



縄文太鼓演奏家 茂呂剛伸



GOSHIN MORO LIVE

Collaboration entre le taiko Jomon et le piano
Jeudi 6 juillet à 18h30
Maison de la Culture du Japon à Paris

Le taiko Jomon, issu de la tradition des tambours de guerre, est un art vivant. Goshin Moro, un musicien japonais, a créé une œuvre qui mêle le taiko Jomon et le piano. Cette collaboration unique sera présentée à la Maison de la Culture du Japon à Paris.

Le concert sera accompagné d'une exposition de photos de la culture Jomon. Les billets sont disponibles à la vente.

Contact: more@minai.com

▲パリ公演のチラシ

縄文太鼓のフランス公演を企画したのは2015年春のことでした。2015年11月20日にパリでの縄文太鼓演奏を予定していましたが、11月13日に起こったパリ同時多発テロによって、延期を余儀なくされ、言葉にできない悔しい思いを致しました。その後も、フランス国内でも幾度のテロ行為が続きましたが、パリ日本文化会館や在フランス日本大使館との協議を重ねて今回の実現となりました。



▲パリ公演の様子

パリ公演実現には、北の縄文道民会議の堀会長、横内副会長、戎谷事務局次長、阿部先生をはじめとする北海道縄文世界遺産推進室の皆様、長沼先生をはじめとする北海道埋蔵文化財センターの皆様、その他も沢山の皆様のお力添えがございました。

この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。

また、今年8月にはユネスコの世界文化遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」19ヶ所（関連資産含む）全遺跡を巡り、管理者の許可を得て全遺跡の土の採取を終えることができました。各遺跡では学芸員の方々から遺跡に関する説明を受けることができ、縄文文化の魅力を再確認し、ユネスコの世界文化遺産登録の重要性をより強く感じました。

これから、全ての遺跡の土で縄文太鼓を制作し、その響きで「北海道・北東北の縄文遺跡群」を繋げ、気運を盛り上げることに少しでも寄与できれば嬉しく思います。

これからも、北の縄文文化を北の縄文道民会議の一員として道外・海外に向けても発信して参ります。引き続き、応援頂ければ幸いです。

*** 茂呂剛伸さんの縄文太鼓とは ***

北海道の土を用いて手びねりで造形し、縄で文様を付け乾燥させて焼き上げ、エゾシカの革を張った北海道産の楽器です。



縄文イベント情報

10月～12月

※皆様からの情報もお待ちしています。

札幌市

- ◆ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録推進フォーラム 〈北海道環境生活部世界遺産推進室〉
* 日程：12月上旬開催予定 ※ 詳細は、チラシや北海道のホームページ等でお知らせします。
- ◆ 第2回展覧会「十勝の縄文文化」〈札幌国際大学縄文世界遺産研究室〉
* 期間等：開催中（H30年2月2日（金）まで） 札幌国際大学6号館1階
- ◆ 縄文芸術祭「縄文太鼓と舞踊のタベ」（事前申込・定員50名）〈札幌国際大学縄文世界遺産研究室〉
* 日時等：10月13日（金） 18：00開演 札幌国際大学総合情報館1階プラザ
- ◆ パネルディスカッション「世界遺産登録と地域おこし」〈札幌国際大学縄文世界遺産研究室〉
* 日時等：11月11日（土）13：30開演 札幌国際大学6号館
* 基調講演：青野友哉氏（伊達市教育委員会）

函館市

- ◆ 縄文シティサミット in はこだて（基調講演、首長討論、遺跡・展示施設見学）〈函館市教育委員会〉
* 日程等：11月11日（土）～12日（日）函館アリーナ ※函館市教育委員会HPをご覧ください。
- ◆ 函館市縄文文化交流センター定期講座「植物の繊維利用」（全3回）〈函館市縄文文化交流センター〉
* 日程：10月22日、12月17日、1月21日 ※ 講座は通年・期間限定メニューあり。

森町

- ◆ 森町内遺跡調査報告会 〈森町教育委員会〉
* 日程：11月開催予定 ※ 森町教育委員会HPをご覧ください。

洞爺湖町

- ◆ 入江・高砂貝塚館「縄文ロビー講座」〈洞爺湖町教育委員会〉
* 日程：10月14日、11月18日 ※ 洞爺湖町教育委員会HPをご覧ください。

千歳市

- ◆ 「縄文クッキーをつくろう！」（小学生以上）〈千歳市埋蔵文化財センター〉
* 日程等：10月21日（土）（募集開始10月10日～ ※申込要。先着順）
- ◆ 講演会「ニツ森貝塚のここがスゴイ」〈千歳市埋蔵文化財センター〉
* 日程等：10月29日（日）13：30開演 北ガス文化ホール
* 講師：小山 彦逸氏（青森県七戸町教育委員会）
- ◆ 講演会「三内丸山遺跡について」〈千歳市埋蔵文化財センター〉
* 日程等：11月26日（日）13：30開演 北ガス文化ホール
* 講師：岩田 安之氏（青森県教育委員会文化財保護課）

苫小牧市

- ◆ 講演会「縄文遺跡と世界遺産 - 北の縄文の実像を探る - 」〈苫小牧縄文会〉
* 日程等：11月25日（土）14：30開演 苫小牧市民活動センター 多目的ホール
* 講師：小杉 康氏（北海道大学大学院文化研究科 教授）

道外の縄文の構成資産から⑤

是川石器時代遺跡 青森県

是川石器時代遺跡は、中居・一王寺・掘田の三つの遺跡からなり、新井田川左岸の段丘上に立地します。前期から晩期の集落遺跡群で、日本考古学史に残る数々の発見がありました。一王寺遺跡では、細長いバケツ形の土器が大量にみつかり、「円筒土器」の名が付けられ、東北地方北部の前・中期の標識名になりました。掘田遺跡は土器とともに宋銭が出土し、縄文文化の終末年代をめぐる論争の舞台となりました。中居遺跡では、漆器をはじめ様々な植物質遺物が出土したことで、全国的に知られています。本遺跡は、長期的な集落の変遷や漆芸技術の系譜を考える上で重要な遺跡です。

問合せ 八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館
電話 〇一七八―三八―九五―

北の島のアクセス

礼文島北部の砂丘上に広がる船泊（ふなどまり）遺跡では、地元で採れるビノスガイという二枚貝を打ち欠いて、メノウ製の錐で穴をあけた、径一センチ前後の平玉が一万五千点以上も出土し、お墓に埋葬された人の首・手首・腰・足首に装着されていたものもありました。遺跡からは貝玉作りの作業所跡もみつかっており、新潟県糸魚川地方産の大きなヒスイの玉や南海産の貝製装飾品も出土しています。美しいもの、珍しいものを作ったり、交易で入手したりするのは、今も昔も変わりません。

道内各地の活動状況

噴火湾考古学研究会 会長 洞口 雅章

20数年前に北黄金貝塚の史跡公園整備の話が持ち上がりました。しかし、当時の伊達市民にとって縄文は教科書で触れた程度で、ましてや北黄金貝塚の存在すら知らない状況でした。そこで平成5年に有志数名が集まり、縄文の価値を市民に伝える活動をしていこうと噴火湾考古学研究会を発足させました。伊達とせずには噴火湾としたのは、遺跡の宝庫である噴火湾沿岸の有志が連携して縄文を発信していこうとの思いを込めました。約50名の会員で活動をしています。

発足して最初の事業は、「冊子噴火湾遺跡ハンドブック」を発行しました。これまでに、「考古学者峯山巖を訪ねて」「伊達：遺跡と歴史の散歩道」の3冊を発行しました。また、市民に遺跡へ足を運んでもらおうと北黄金貝塚公園で開催している縄文まつりは、今年で20回目となりました。

活動を始めて22年が経ちますが、会員の高齢化や縄文ブームが落ち着いたことで縄文講演会等のイベント参加者が減少傾向にあります。世界遺産登録実現のためには地元住民の理解が不可欠です。

そこで、若い世代に伝える手法としてSNS等を利用してみました。今年はその芽が少しだけ出てきました。その芽を育て、市内に点在する縄文遺跡が市民の共有財産と認知されるよう活動していきます。